



森友問題は『丁寧に』安倍首相を再調査！

世の中はオリンピック一色。安倍首相は「オリンピックを、遅くても来年夏までに開催」とIOCと合意。

しかし、何時か分からないが、新型コロナウイルスが世界的に収束して初めて予選が出来、オリンピック開催時期が決められる。今年の夏には開催できないことだけが今は明らかだ。

赤木さんの遺書

折しも、森友問題で改竄かいざんさせられ自殺した赤木さんの遺書全文が週刊文春からネット(註)に公開された。

森友問題では安倍首相は自分も妻も関わっていないと大見得を切った。

安倍首相の意向を付度した佐川局長は記録を安倍首相の発言に合わせると指示。

近畿財務局の赤木俊

ますか？

夫さんが記録を改竄させられた。その為、検査の取り調べも受け、悩んだ末に自殺。

改竄を誰がどう指揮したのか？遺書には克明に書いてある。それと当時の状況を照らし合わせれば改竄問題の真実が分かる。

再調査要求に安倍首相は知らん顔。赤木さんが命を賭けた告発も平然と無視。

腹心の検事長の定年を無理矢理延長して押さえとしたのに、明確な証拠が出たら担当検察官を押さえられない。

赤木さんは死を賭して告発したのだ。それを無視することはもう一度赤木さんを殺すことに等しい。

あなたはどう思われますか？

註 <https://bunshun.jp/articles/-/36818>

小田原用水(早川上水)の取水堰

神奈川県小田原市板橋

二〇二〇年二月二三日



かつて早川の流は左岸寄り。そしてこの絵の手前のコンクリートの上も流れていた。そこは十六世紀北条氏康の頃に作られた早川上水。日本最古の水道とされる。

一九三〇年代まで上水、飲料水として小田原市内で使われていた。末は小田原城のお堀に注いでいた。

ところが昨年十月の台風十九号は早川の河原の右岸を削り、左岸に土砂を堆積させた。その為、用水には水が流れ込まなくなってしまう。そして、右岸寄りの堰の上を激しく流れている。

用水路と堰の間にくぼみのように見えるのは魚梯いしなみ(魚のはしこ)。流れの中に、幾つもの堰を階段状に置き、一段毎の高さを小さくしている。魚は休みながら上ることが出来る。

